プラハ・カドリエンナーレ 2023 成果報告

演劇舞踊デザイン学科
講師　野上絹代

2023 年 6 月 5 日～13 日、多摩美術大学演劇舞踊デザイン学科所属の 8 名・出身の 1 名の学生とともにチェコ共和国の首都・プラハに渡航・滞在した。目的は 4 年に一度の世界的セノグラフィーフェスティバル・プラハカドリエンナーレ 2023（以降、PQ2023 と表記）への参加と、現地の国立カレル大学との交流である。

PQ2023 では（衣裳家を含む）舞台美術家が国や地域ごとにブースを出展し、自国の舞台美術の最先端を披露しあう。また、学生エリアも設けられ、各国の学生たちがデザインしたブースが屋外に展示された。日本からは日本舞台美術協会がプロとして参加・ブースを出展しており、多摩美を含む舞台美術を学ぶ学生たちにも機会を与えてくれ、参加が叶った。

写真：PQ2023 の学生ブース（日本）

日本の学生ブースでは多摩美術大学・日本大学芸術学部・玉川大学・武蔵野美術大学・大阪芸術大学・静岡芸術文化大学・明治大学の学生らによるデザインのセットが建てられ、各大学からなるチームがそこでパフォーマンスをする。今回の渡航の一番の使命はこのパフォーマンスである。

写真：『HOTTSUKU』

多摩美は学生が創作した『HOTTSUKU』というタイトルのパフォーマンスを、6 月 8・9 日の 2 日間発表した。想定していたよりも現地でのパフォーマンス環境は悪く、気温の上昇・地面の凹凸・突然の雨・小道具調達の難しさに悩みな

写真：『HOTTSUKU』

がらも、その都度仲間と対話をし、決断し、やり遂げた学生たち。教員の目から見てもその成長ぶりは目を見張るものだった。

また、9 日午前中にはプラハの旧市街地にある国立カレル大学を見学させていただく機会にも恵まれた。交流会と聞いていたので、現地の大学生との交流を楽しみにしていたのだが、実際には大学の中を見学させていただく会で、少し肩透かしをくらったのも束の間。約 700 年前に設立されたカレル大学の歴史的な存在感に圧倒されっぱなしで、とても満足のいく

写真：カレル大学外観

写真：カレル大学講堂

写真：卒業生のためのガウン

写真：大学設立にまつわる絵画

会になった。

2 日間のパフォーマンス公演を終え、世界遺産・チェスキー・クルムロフの見学ツアーや国立歌劇場でのオペラ見学を終えて、無事に帰国した学生たち。彼女たちの成長もさることながら、教員である私にとっても得難い貴重な経験となった。

この機会を与えてくださった演劇舞踊デザイン学科加納豊美教授と多摩美･国際交流センターに心から御礼申し上げます。

写真：上段左から竹内珠璃、岡田呼々、成瀬双葉、小野里満子、山﨑千尋、野上絹代

下段左からコウ・ガテイ、チ・エキシュウ、ソン・エツ、シュウ・テイメイ